

第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2017年5月13日(土)～14日(日)

@サンポートホール高松、高松シンボルタワー、JRホテルクレメント高松

ワークショップ 34	
企画名	総合診療医と漢方医のコラボレーション
日時	2017年5月14日(日) 13:45～15:15
会場	第6会場 (サンポートホール高松 ホール棟 7F 第3リハーサル室)
企画責任者	檜尾 明彦 (和田堀診療所)
定員	30名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】</p> <p>医師は通常、患者の主訴から、必要な診察や検査を行い、医学的診断をして、エビデンスをふまえて治療方針を決定します。しかし、プライマリ・ケアの現場では、医学的診断が可能な症状や訴えがそれほど多くはないことも知られています。例えば、冷え、全身倦怠感、咽頭違和感、食欲不振、腹痛、下痢、咳嗽などの症状に対応する場合、検査をしても異常が見つからない、または生命に危険な疾患や西洋医学的な治療が確立されている疾患が除外されると、経過観察や対症療法となることも少なくありません。総合診療医が漢方の視点を持つことで、西洋医学だけでは解決できない症状に対して新たな治療介入が可能になると考えられます。さらに漢方薬が奏効すれば、日々の診療のやりがいが高まることも期待できます。総合診療医と漢方医のコラボレーションによるワークショップで、漢方医学的なアプローチの方法を学び、日常診療で漢方治療を実践するきっかけとなれば幸いです。</p> <p>【概要】</p> <p>プライマリ・ケアで遭遇する機会が多い症状について、総合診療医が経験するような外来や在宅、病棟でのケースを想定し、総合診療医と漢方医の双方の視点からのアプローチを、グループワークで体験し、各グループのファシリテーターや、講師を交えてディスカッションを行い、全体で共有します。ワークショップ(以下WS)を通じて、漢方治療が適応となりやすい病態を知り、漢方医がどのように考えて漢方治療を行っているのか、漢方薬の処方決定のプロセスが理解できるような内容です。漢方に関して、まだ不慣れな参加者でも、明日からの診療に漢方薬を処方してみよう、漢方についてもっと深く学びたいと思うようなWSにしたいと考えています。皆様のご参加をお待ちしております。</p>	